



# 平成19年度の研究を紹介します

今年度も、10名の長期研究員が豊かな教育実践に生かせる研究に取り組んでいます。

**奥山 吉範** (小学校 総合的な学習の時間)

将来、自立した社会人として生きていくための基礎的な資質や能力・態度を身に付けることが小学校段階から求められています。子どもたちが**社会や将来との関係から学ぶ意味や価値を見出せるよう**、総合的な学習の時間を核とした**キャリア教育の展開の仕方**を研究します。

**武田 純** (小学校 体育科)

ボールゲームは教師や児童にとっても楽しい時間です。**バスケットボール型ゲームで、戦術的な学習を軸に、運動の学び方を児童に身に付ける研究**をします。また、**児童の相互評価を積極的に活用することによって、技能が低い児童のよさも見出して**いきます。

**渡邊 健** (中学校 理科)

グラフ作成・活用の能力アップを目指し、定量実験の場面において、**観察・実験から得たデータを生徒の実態から分析し作成した「グラフ作成10のスキルズ」と「グラフ活用6のスキルズ」のスキルを身に付けながら、自然現象を定量的にとらえ、それを自分の言葉で説明できる能力を育成する研究**をします。

**阿部 光** (教育相談)

これからの学校教育相談に求められるのは、一部の生徒を対象とした「問題解決的対応」ばかりではなく、**すべての生徒を対象とした「予防・開発的対応」**です。本研究では、工業高校をモデルに、人とかかわるスキル等を向上させるための「**予防・開発的な教育相談活動**」を推進するための研究をします。

**高野 道子** (小学校 社会科)

社会科では資料活用能力の育成が課題とされています。その中でも特に**苦手意識の高い統計資料に焦点を絞り、各学年の単元に統計資料活用**の場を位置付け、様々な学習活動を行う中で、**学年の発達段階に即した統計資料の見方や活用の仕方**を指導していく授業の在り方を研究します。

**櫻井 宗成** (中学校 社会科)

社会科における資料の多角的・多面的な見方とは何か？教科書等に掲載されている**非連続型テキスト**の一般的な活用方法を調査検討した上で、**効果的な非連続型テキストを作成し、活用を図ることで社会科における多面的・多角的な見方や考え方を育成する研究**をします。

**小熊 快治** (中学校 数学科)

小学校及び中学校3年間の図形領域を見通して、**系統性を活かした指導を行うことにより、一つ一つの知識のつながりを意識し、根拠をとらえ、筋道を立てて論証することができる生徒の育成**を2年生の図形領域を中心に研究します。

**國分 康広** (中学校 数学科)

生徒がよくわからなかった単元の上位に位置する「**1次関数**」。一つの**事象について学習内容の意味付けを行うとともに、学習内容のネットワーク化を図る手法を取り入れること**で、生徒一人一人に確実に定着させる指導法の研究をします。

**渡邊 かおり** (研究調査)

学校の組織力を高めるには、**教師一人一人の実践的な指導力を高めていく**必要があります。では、どんな実践力をどのように高めていけばよいのでしょうか。協力校での実践をもとに、**振り返りから見える個人の課題を、校内で解決していくためのミドルリーダーのかかわり**について研究します。

**廣瀬 了之** (情報・国際交流)

ネットワーク社会の進展に伴い、インターネットを活用しての**国際活動、協力する力が求められています**。国境を越えての**コミュニケーション能力の育成、異文化理解の手段として、どの学校においても情報機器を利用して簡単に国際交流が実施できる、国際交流手順書の作成**を研究します。